

日本—英国 国際共同研究「非医療分野における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連研究」 2021年度 年次報告書	
研究課題名（和文）	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による青少年の生活および健康への影響およびその関連因子に関する日欧比較研究
研究課題名（英文）	Assessing cross-cultural difference and similarities of influences to adolescents in the COVID-19 pandemic: a mixed-method analysis
日本側研究代表者氏名	森崎菜穂
所属・役職	国立成育医療研究センター 社会医学研究部 部長
研究期間	2021年5月1日 ～ 2023年3月31日

1. 日本側の研究実施体制

国名	氏名	所属機関・部署・役職
日本	森崎菜穂	国立成育医療研究センター・社会医学研究部・部長
日本	三瓶舞紀子	日本体育大学・体育学部健康学科ヘルスプロモーション領域・准教授
日本	山岡結衣	東京医科歯科大学公衆衛生学講座・助教
日本	半谷まゆみ	国立成育医療研究センター・社会医学研究部・共同研究員
日本	Aurelie Piedvache	国立成育医療研究センター・社会医学研究部・研究員
日本	澤田なおみ	国立成育医療研究センター・社会医学研究部・共同研究員
日本	大久保祐輔	国立成育医療研究センター・社会医学研究部・共同研究員

日本	田中恭子	国立成育医療研究センター・こころの診療部・診療部長
日本	山口有紗	国立成育医療研究センター・こころの診療部・臨床研究員
日本	大野佳子	城西国際大学・看護学部・准教授
日本	細澤麻里子	国立国際医療研究センター・国際医療協力局・主任研究員
日本	後藤隆之介	長野県立子ども病院・医師
日本	越智真奈美	国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部研究員
日本	石塚一枝	国立成育医療研究センター・社会医学研究部・研究員
日本	高橋揚子	国立成育医療研究センター・教育研修部・専門研修医
日本	大野佳子	獨協医科大学・看護学部・准教授
日本	山内里奈	国立成育医療研究センター・社会医学研究部・共同研究員
日本	永田知映	国立成育医療研究センター・教育研修センター・室長
日本	島岡佑典	国立成育医療研究センター・教育研修部・専門研修医

2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

研究代表者らは、全国の子どもたちとその家族の心理社会的実情やニーズを把握するためのオンライン調査を継続して実施し、迅速に結果を公表することで、子どもたちの諸問題の早期発見、予防や対策に貢献してきた。

そこで本研究では、①2020年から引き続きコロナ禍における日欧の子どもの生活や健康の実態およびニーズを経時的に把握し、諸問題の早期発見、予防や対策につなげること、②社会的弱者へのコロナ禍の影響の偏在の日英比較から、格差が広がりつつある日本社会における災害時の支援枠組形成に向けた政策・連携基盤となる基礎資料を示す、ことを目的としている。

3. 日本側研究チームの実施概要

2021年度は、2020年に5回実施したウェブ調査「コロナこどもアンケート」を、2021年9月および2021年12月に実施し、全国からランダムに選ばれた小5-中3のこどもおよび保護者を対象にした郵送調査「2021年度新型コロナウイルス感染症流行による親子の

生活と健康への影響に関する実態調査」を 2021 年 12 月に実施した。これらの調査については、学校やオンライン授業についての気持ち、子供のワクチン接種に対する考え、こどもの抑うつ傾向と援助希求性との関連などについて報告書をまとめ、研究者らの「コロナこども本部」ウェブサイトにて公開した。

（リンク：[アンケートの結果をみる | 国立成育医療研究センター \(ncchd.go.jp\)](https://ncchd.go.jp/)）

また、2020 年から継続的に集めている情報をもとに下記の 2 つの学術的解析を実施した。

① 家庭環境（保護者の勤務状況、経済状況、心理的苦痛）により、こどもがまわりの大人に求めていることがどのように異なるのかをテキストマイニングにより分析した。

② 子どもの社会経済状況や親子関係により、こどものうつ傾向、幸福度、あるいは問題行動、がどのように異なるのかを解析した。

さらに、イギリスにおいて同時期（2020 年 3 月～）に実施されている縦断調査（Co-SPACE 調査）の情報の二次利用の手続きを行い、親子関係やこども生活習慣により、こどもの心理状況変化がイギリスにおいてはどのように異なるのかを解析した。

上記はいずれも、2022 年 5 月時点で、投稿中あるいは投稿準備中である。